



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月10日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS
 コード番号 7638 URL <http://www.newart-ir.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松橋 英一

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	14,083	3.1	1,956	2.4	2,128	8.5	1,195	3.2
2021年3月期第3四半期	13,665	3.4	1,910	24.8	1,961	22.5	1,158	18.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,080百万円 (4.6%) 2021年3月期第3四半期 1,132百万円 (16.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	75.37	
2021年3月期第3四半期	73.52	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	19,842	9,429	46.7
2021年3月期	18,694	8,792	47.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 9,273百万円 2021年3月期 8,792百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		50.00	50.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,730	20.0	3,070	36.3	2,930	20.1	1,660	47.4	105.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	16,626,375 株	2021年3月期	16,626,375 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	682,381 株	2021年3月期	874,439 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	15,859,567 株	2021年3月期3Q	15,759,012 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)は、売上及び利益ともに前期を大きく上回る数字を作り出すことが出来ました。特に、ジュエリー・アート事業においては、12月単月の業績としては、創業以来最高の売上及び利益を達成いたしました。当社は、今までに無いものを作り出し、お客様に感動を与え、社会のために貢献していくという考え方で企業運営をしており、その理念は着実に実現されております。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は売上高140億83百万円(前年同期比3.1%増)、営業利益19億56百万円(前年同期比2.4%増)、経常利益21億28百万円(前年同期比8.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益11億95百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

12月単月の創業以来最高の売上高、利益高を達成した流れは1月、2月と現在も継続しております。期末配当についても、当初の発表の通り1株につき70円の配当を株主の皆さまのご期待にお応えして実施いたします。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を「ジュエリー・アート事業」「ヘルス&ビューティー事業」と金額的重要性が減少した事業をまとめた「その他事業」の3区分に変更いたしました。

① ジュエリー・アート事業

当第3四半期連結累計期間におけるジュエリー・アート事業の売上高は115億32百万円(前年同期比0.0%)、セグメント利益22億38百万円(前年同期比7.5%増)となりました。当第3四半期連結累計期間の12月度においてはジュエリー・アート事業の売上の躍進が目覚ましく、この流れは衰えることなく続いております。集客施策としてはTVCMのリニューアルを実施しました。そのドラマチックなストーリーは多くのお客様に好評を博しており、ブランドの認知度向上に寄与し、消費者の皆様へブライダルジュエリーといえば「銀座ダイヤモンドシライシ」というイメージを浸透させることを実現しております。新型コロナウイルス感染症の影響により地元志向が強まっていることを念頭に大都市圏以外の地方都市や大都市周辺地域への新規出店を昨年、本年と継続して実施しております。今まで店舗が少なかった東北エリア、九州エリアにおいては青森、山形、秋田、鹿児島、大分、大都市周辺地域では和歌山、奈良、横浜みなとみらいなどのエリアへ出店し、業績向上に大きく寄与しております。また、既存店においてもお客様本位のサービスを進め、高い評価を頂いております。営業戦略と同時にアートの発想による店舗のデザイン開発、生産ライン開発と商品製造部門の革新を進めており、生産体制の強化による業績の向上が実現できる体制作りを進めております。

② ヘルス&ビューティー事業

当第3四半期連結累計期間におけるヘルス&ビューティー事業の売上高は20億11百万円(前年同期比0.4%減)、セグメント損失3億7百万円(前期同期はセグメント損失78百万円)となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況に至り数字が一時的に落ちた部分がありますが、こういった状況が改善されると業績は従来のレベルに回復すると考え、現在は新人教育などに力を注ぎ、フル稼働が可能な体制を構築する準備を進めております。同時に当事業については従来の営業スタイルの転換期を迎えていると考えており、化粧品の製造ライン開発、ECビジネスなどを進めることで、顧客を店舗に集客して売上を作る営業スタイルに加えて、過去の内容にとらわれない柔軟な経営方向を探りながら新しいビジネス展開を進めております。

③その他事業

当第3四半期連結会計期間より新しく開始したオークション事業は日本で最も歴史のあるオークション会社エスト・ウェストオークションズの株式の70%を取得し、新たなアート関連ビジネスとして開始しました。第1回目のオークションは10月1日に羽田空港内で開催され、26億円のハンマープライス（落札価格）となりました。また、日本初の保税蔵置場を利用したアートオークションとして評判を呼びました。第2回目のオークションは、11月18日帝国ホテルで開催され10億円のハンマープライスとなり、2回のハンマープライスの合計金額は36億円となりました。これは日本でのオークション市場における歴史的な第一歩となりました。今後、国内で年間4回、新しく設立した香港の会社で年間2回、シンガポールで1回を開催し、年間落札額100億円以上、手数料20%を目標に積極的な展開を行います。オークション事業については実施した2回のオークションにより当社グループ会社となる以前の過去の赤字を解消しており、3年後は全株式の取得を実施し、ジュエリー・アート事業に続く大きな事業の柱とする予定で事業を運営しております。

スポーツ事業においては、ゴルフクラブを「クレイジー」ブランドで展開し、一般の代理店他、スポーツ量販店での展開を進めると同時に製造メーカーとしての機能をさらに充実させ、安定的な売り上げの作れる体制構築を進めてまいります。売場が広がることに対応してより多くの新製品の開発を進め、アイテム増加による商品ラインナップの充実を図っております。

フィンテック事業においては、手数料収入であります。効率の良いビジネスモデルであり、ヘルス&ビューティー事業のクレジット事業をすべて引き受ける計画実現のため、業容拡大を目指して人員を増加し、成長できる事業体制の構築を進めております。

これらの事業の業績を集計した結果、売上高は5億54百万円（前年同期比307.8%増）セグメント利益1億46百万円（前年同期は37百万円の損失）となり、全体の業績向上に寄与しました。

（注）各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

当社グループのセグメント別売上は、以下のとおりであります。

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) (千円)	前年同期比 (%)	構成比 (%)
ジュエリー・アート事業	ブライダルジュエリーの製造・販売、ブライダル関連サービス、美術品の販売等	11,530,384	0.0	81.9
ヘルス&ビューティー事業	エステティックサロンの運営、化粧品及び健康食品等の製造・販売	1,998,170	0.1	14.2
その他事業	アートファンドの組成・運営、クレジット事業、アートオークションの運営、ゴルフ用品の製造・販売、関連スポーツ用品の開発	554,552	307.9	3.9
合 計		14,083,107	3.1	100.0

（注）セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比9億23百万円増加（前連結会計年度末比7.8%増）し、128億20百万円となりました。これは、現金及び預金の増加7億94百万円並びに受取手形及び売掛金の増加5億93百万円などがありました一方で、商品及び製品の減少3億44百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比2億24百万円増加（同3.3%増）し、70億22百万円となりました。これは、建物及び構築物（純額）の増加1億66百万円及びのれんの増加1億60百万円などによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比11億48百万円増加（同6.1%増）し、198億42百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比5億88百万円増加（前連結会計年度末比7.4%増）し、85億43百万円となりました。これは、短期借入金の増加2億90百万円並びに未払金及び未払費用の増加3億31百万円などがありました一方で、未払法人税等の減少1億13百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比77百万円減少（同4.0%減）し、18億70百万円となりました。これは、長期借入金の減少1億58百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比5億11百万円増加（同5.2%増）し、104億13百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比6億36百万円増加（前連結会計年度末比7.2%増）し、94億29百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益11億95百万円がありました一方で、剰余金の配当7億87百万円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は46.7%（前連結会計年度末は47.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期通期の業績予想につきましては、2021年5月10日公表の業績予想から修正はありません。なお今後、業績予想について変更がある場合は速やかに公表を致します。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,133,148	3,927,394
受取手形及び売掛金	1,489,608	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	2,082,755
商品及び製品	6,640,738	6,295,906
仕掛品	60,082	50,167
原材料及び貯蔵品	268,549	270,119
仕掛販売用不動産	—	74,149
前払費用	158,457	204,715
その他	391,751	227,613
貸倒引当金	△245,241	△312,200
流動資産合計	11,897,094	12,820,621
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,460,194	1,626,346
機械装置及び運搬具（純額）	6,487	5,130
工具、器具及び備品（純額）	840,998	866,977
土地	2,100,180	2,100,180
リース資産（純額）	299,657	290,139
建設仮勘定	—	1,043
有形固定資産合計	4,707,518	4,889,816
無形固定資産		
のれん	281,589	442,404
その他	43,847	36,483
無形固定資産合計	325,437	478,887
投資その他の資産		
長期貸付金	637,340	590,540
繰延税金資産	180,456	124,811
敷金及び保証金	1,222,566	1,227,756
その他	383,248	361,851
貸倒引当金	△659,155	△651,642
投資その他の資産合計	1,764,456	1,653,318
固定資産合計	6,797,412	7,022,022
資産合計	18,694,506	19,842,644

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	232,291	249,769
短期借入金	3,610,000	3,900,000
1年内返済予定の長期借入金	459,274	479,983
リース債務	91,382	95,229
未払金及び未払費用	869,029	1,200,943
未払法人税等	598,589	484,715
前受金	1,625,061	—
契約負債	—	1,839,369
その他	468,598	293,058
流動負債合計	7,954,227	8,543,067
固定負債		
長期借入金	962,359	804,257
リース債務	220,230	185,138
退職給付に係る負債	222,954	241,436
その他	542,115	639,289
固定負債合計	1,947,658	1,870,121
負債合計	9,901,886	10,413,189
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,376,202	2,474,276
利益剰余金	4,580,542	4,979,489
自己株式	△637,490	△498,414
株主資本合計	8,936,506	9,572,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	181	338
為替換算調整勘定	△144,067	△298,951
その他の包括利益累計額合計	△143,886	△298,613
非支配株主持分	—	155,464
純資産合計	8,792,620	9,429,455
負債純資産合計	18,694,506	19,842,644

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	13,665,759	14,083,107
売上原価	5,421,576	5,030,777
売上総利益	8,244,183	9,052,330
販売費及び一般管理費	6,333,192	7,095,912
営業利益	1,910,990	1,956,418
営業外収益		
受取利息及び配当金	10,505	8,029
為替差益	35,804	185,400
助成金収入	46,510	15,500
その他	4,507	16,953
営業外収益合計	97,328	225,884
営業外費用		
支払利息	45,233	43,261
貸倒引当金繰入額	1,010	10,157
その他	403	281
営業外費用合計	46,647	53,699
経常利益	1,961,671	2,128,603
特別利益		
固定資産売却益	18	45,184
特別利益合計	18	45,184
特別損失		
固定資産除却損	2,837	966
固定資産売却損	—	249
減損損失	—	6,193
特別損失合計	2,837	7,409
税金等調整前四半期純利益	1,958,852	2,166,378
法人税、住民税及び事業税	752,412	875,952
法人税等調整額	47,806	55,644
法人税等合計	800,219	931,596
四半期純利益	1,158,633	1,234,781
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	39,513
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,158,633	1,195,267

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,158,633	1,234,781
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	152	157
為替換算調整勘定	△26,621	△154,884
その他の包括利益合計	△26,469	△154,727
四半期包括利益	1,132,163	1,080,054
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,132,163	1,040,540
非支配株主に係る四半期包括利益	—	39,513

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

1. 本人及び代理人取引に係る収益認識

消化仕入に係る収益について、従来は、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。なお、当該収益については「売上高」に計上しております。

2. 入会金に係る収益認識

ヘルス&ビューティー事業における入会金について、従来は、契約開始時に収益を認識しておりましたが、会員の契約期間にわたって履行義務が充足されるものとし、履行義務の充足に係る合理的な期間を見積り、収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は192,096千円減少し、売上原価は190,410千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,685千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は8,661千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとし、「流動負債」に表示していた「前受金」は、「契約負債」と表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年7月26日付で、株式会社ニューアート・エストウエストオークションズ(旧 エスト・ウエストオークションズ株式会社)の株式を取得しております。当該株式取得の対価の一部として自己株式の交付を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が98,074千円増加、自己株式が141,938千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が2,474,276千円、自己株式が498,414千円となっております。

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	ジュエリー・ アート事業	ヘルス&ビュー ティー事業	その他事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,533,364	1,996,439	135,955	13,665,759	—	13,665,759
セグメント間の内部売 上高又は振替高	721	24,036	30	24,788	△24,788	—
計	11,534,086	2,020,475	135,985	13,690,548	△24,788	13,665,759
セグメント利益又は損 失(△)	2,083,060	△78,307	△37,755	1,966,997	△56,007	1,910,990

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△56,007千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	ジュエリー・ アート事業	ヘルス&ビュー ティー事業	その他事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	11,503,124	1,993,735	540,340	14,037,199	—	14,037,199
その他の収益 (注) 3	27,260	4,435	14,212	45,908	—	45,908
外部顧客への売上高	11,530,384	1,998,170	554,552	14,083,107	—	14,083,107
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,226	13,698	—	15,924	△15,924	—
計	11,532,611	2,011,868	554,552	14,099,032	△15,924	14,083,107
セグメント利益又は損失 (△)	2,238,800	△307,141	146,509	2,078,169	△121,751	1,956,418

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△121,751千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から、収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

この結果、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「ジュエリー・アート事業」の売上高は190,410千円減少しておりますが、セグメント利益に与える影響はありません。「ヘルス&ビューティー事業」の売上高は、1,685千円減少、セグメント損失は1,685千円増加しております。

また、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を従来の「フィンテック事業」から「アートオークション・フィンテック事業」へ変更しております。

さらに、当第3四半期連結会計期間より、従来、報告セグメントとして記載しておりました「アートオークション・フィンテック事業」及び「スポーツ事業」について、重要性が減少したため、「その他事業」に含めて記載しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称及び区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ヘルス&ビューティー事業」において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、6,193千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他事業」において、第2四半期連結会計期間より株式会社ニューアート・エストウェストオークションズ(旧 エスト・ウェストオークションズ株式会社)の株式を取得し、同社を連結子会社にいたしました。当該事象によるのれんの増加額は、184,335千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。